



<https://www.tourism.jp>



<https://www.oag.com/jp>



<http://mpower.pata.org/>

Quarterly Update

データで見る訪日インバウンド市場トレンド

2019年12月初旬

発行 株式会社JT B総合研究所

分析協力：OAG Aviation Worldwide Limited.

データ提供：Pacific Asia Travel Association (PATA)

本編レポートは年2回(年初、年央)発行ですが、今回発行のQuarterly Update は市場別・地域別の短期見通しに絞って前回2019年7月末に発行したレポートの内容を更新したものです。



この発行物は2016年、2017年に年刊書籍として刊行していた同名のレポートを改版したものです

Executive Summary(主要市場別動向)

2019年12月初旬

市場	19年Q4現在の状況と 20年Q1の見通し	アジア諸国との競合状況	20年Q1の見通し
中国	アジア主要国への旅行者数合計値は年率10%を割り込んでおり、減速感が強まっている 訪日の伸び率は2018年の自然災害をきっかけに大きく減速したが、今後は前年の反動増も加わり加速に転じる見通し	韓国は反動増で年率30%弱の伸びだが最盛期は過ぎた 一方、日本、ベトナム、タイなどが伸び率を回復しつつある	20年Q1は座席数の増加を背景に19年Q4並みの伸び率を維持する見通し
韓国	海外旅行需要全体の減速が2018年から続く中、訪日は特殊要因から過去にない水準の下げ幅となっている 訪日の減少は19年Q4が底で20年Q1はマイナスが続くものの下げ幅は縮小の見通し	年率40%台で伸びるベトナムにフィリピンが急速にキャッチアップしつつある 日本と香港が前年割れで推移	訪日の減少は19年Q4が底 20年Q1も前年比マイナスが続くが下げ幅は縮小する見通し
台湾	海外旅行需要全体が減速しており訪日も昨年秋の災害以降、勢いに欠ける 今後は昨年秋の反動で伸び率回復の見通し	年率20%台のベトナムがリード タイ、韓国も二桁台の成長 訪日は一桁台の伸びで香港は前年割れ	19年Q4は前年の反動で伸び率が上昇 20年Q1は概ね同水準の伸び率を維持する見通し
香港	海外旅行需要自体は19年Q3もプラスを維持しているが訪日は年率でマイナスの状態 今後は政情次第だが概ね前年並の推移となる見通し	海外旅行需要の減速を背景に各方面とも伸び率が低下しつつある 訪日の伸び率は低いが19年前半から概ね横ばいで推移	19年Q4から20年Q1にかけての推移は政情次第 概ね前年並み(伸び率0%)の見通し
タイ	アジア主要国への旅行者数の伸び率が軒並み低下する中で訪日は19年Q3に伸び率が回復、年率二桁台の成長率を維持している 19年Q3は好調な伸び率となり、20年Q1も二桁台の伸び率を維持する見通し	韓国、香港、シンガポールが減速、マレーシアの伸び率も下がり始めている 訪日は2019年Q2に減速したが足元では急回復しつつある	20年Q1は19年Q1に比べやや減速するが二桁台の伸び率を維持する見通し
欧米豪	アジア主要国への旅行者数の伸び率が低下する中で訪日はRWCの効果もあって二桁台の伸び率を維持している 20年Q1も二桁台の伸び率で推移する見通し	香港は前年割れ、タイも伸び率0%前後で推移している 訪日はRWCに助けられた面もあるが安定的に二桁台の伸び率を保っている	RWC終了後の減速は軽微にとどまり20年Q1は二桁台の伸び率を維持する見通し

(注)今後3か月の見通しは域内空港の国際線座席数の推移等をもとに予測したもの。各市場の海外旅行者数、及び訪日のシェアは一部概算値。

(注)欧米豪とは英国、フランス、ドイツ、スペイン、イタリア、ロシア、米国、カナダ、豪州の9か国。

Executive Summary(地域別市場動向)

2019年12月初旬

地域	域内延宿泊者数*の現状と 今後の見通し (現状:19年Q3、今後:19年Q4～20年Q1) *外国人宿泊者数	市場別動向									
		中国		韓国		台湾		香港		欧米豪	
		19年Q3 の状況	19年Q4 ～20年 Q1の見 通し	19年Q3 の状況	19年Q4 ～20年 Q1の見 通し	19年Q3 の状況	19年Q4 ～20年 Q1の見 通し	19年Q3 の状況	19年Q4 ～20年 Q1の見 通し	19年Q3 の状況	19年Q4 ～20年 Q1の見 通し
北海道	現状は韓国の急減で急減速している 今後は中国の伸びが加速、台湾、香港も前年の反動で伸び率が上昇するが、韓国の大幅減でトータルの需要は前年比マイナスの見通し	増加	増加が 続く	大幅な 減少	減少が 続く	下げ 止まり	増加に 転じる	減少	増加に 転じる	－	－
東北	台湾比率が高く現状も好調な成長を維持 今後は中国、韓国の減少が予想されるものの台湾がリードしてプラスを維持する見通し	緩やかな 増加	減少に 転じる	減少	減少が 続く	大幅な 増加	増加が 続く	－	－	横這い	－
関東	現状は中国と欧米豪がけん引して好調な成長を維持 今後は中国の加速が予想されトータルの需要はプラスを維持する見通し	大幅な 増加	増加が 続く	減少	減少が 続く	減少	横這い	－	－	大幅な 増加	増加が 続く
甲信越	現状は中国、台湾などのけん引で増加しているが、若干の減速がみられる	大幅な 増加	－	－	－	大幅な 減少	－	踊り場	－	大幅な 減少	－
北陸	現状は台湾の減で踊り場にある 今後は台湾が増加に転じ、中国もプラスを維持してトータルな需要も増加に転じる見通し	大幅な 増加	増加が 続く	－	－	大幅な 減少	増加に 転じる	大幅な 増加	増加が 続く	増加	－
東海	現状は大幅な伸び 今後は中国、台湾の続伸で増加が続く見通し	大幅な 増加	増加が 続く	伸び 止まり	減少に 転じる	大幅な 増加	増加が 続く	－	－	増加	増加が 続く
近畿	現状は中国、及び欧米豪のけん引で増加が続いている 韓国、台湾のマイナスは今後も続くが、中国の伸び率が上昇し増加が続く見通し	大幅な 増加	増加が 続く	大幅な 減少	減少が 続く	下げ 止まり	減少に 転じる	－	－	増加	増加が 続く

(注)市場別動向は上位4市場について記載している

(注)今後3か月の見通しは域内空港の国際線座席数の推移等をもとに予測したもの。現状、今後の判断基準については次のページを参照。

(注)甲信越については陸路で流入する旅行者数が圧倒的で域内空港の座席数推移をもとに見通しを判断することが困難であるため見通しを記載していない。

Executive Summary(地域別市場動向) (つづき)

2019年12月初旬

地域	域内延宿泊者数*の現状と 今後3か月見通し (現状:19年Q3、今後:19年Q4～20年Q1) *外国人宿泊者数	市場別動向									
		中国		韓国		台湾		香港		欧米豪	
		19年Q3 の状況	19年Q4 ～20年 Q1の見 通し	19年Q3 の状況	19年Q4 ～20年 Q1の見 通し	19年Q3 の状況	19年Q4 ～20年 Q1の見 通し	19年Q3 の状況	19年Q4 ～20年 Q1の見 通し	19年Q3 の状況	19年Q4 ～20年 Q1の見 通し
中国	現状は韓国の急減に加え、欧米豪が減少に転じたことでマイナスとなっている 今後については欧米豪の動向が注視されるが中国の伸び率が上昇する他はプラス要素がなく、トータルの需要は減少が続く見通し	伸び 止まり	増加に 転じる	大幅な 減少	減少 が続く	横ばい	横ばい が続く	－	－	減少	－
四国	現状は韓国の急減で伸びどまりとなっている 後は韓国の減少幅が拡大する一方、中国、台湾がプラスのためトータルの需要は横ばいの見通し	増加	増加が 続く	減少	減少が 続く	大幅な 増加	増加が 続く	踊り場	横ばい	－	－
九州	現状は韓国の急減でマイナスに転じたところ 後は中国、台湾、香港が揃ってプラスだが、韓国の急減が続くため、トータルの需要はマイナスの見通し	大幅な 増加	増加が 続く	大幅な 減少	減少が 続く	踊り場	増加に 転じる	増加	増加が 続く	－	－
沖縄	現状は台湾、中国がけん引して増加している 後は台湾、中国が伸び止まり伸び率が低下する見通し	増加	増加が 続く	減少	減少が 続く	穏やかな 増加	増加が 続く	穏やかな 増加	増加が 続く	－	－

(注)市場別動向は上位4市場について記載している

(注)今後3か月の見通しは域内空港の国際線座席数の推移等をもとに予測したもの。

現状、今後の判断基準

現状については過去半年程度の推移をもとに次のような考え方を基準にして判断している。

大幅な増加	年率10%を超える増加が続いている
増加	年率3%～10%の増加が続いている
緩やかな増加	年率3%未満の増加が続いている
伸び止まり	増加から横ばい、もしくは減少に変化している
踊り場	直近の半年は横ばいだがそれ以前は増加もしくは減少していた
横ばい	過去半年以上にわたって増加も減少もしていない
下げ止まり	減少から横ばい、もしくは増加に変化している
緩やかな減少	年率3%未満の減少が続いている
減少	年率3%～10%の減少が続いている
大幅な減少	年率10%を超える減少が続いている

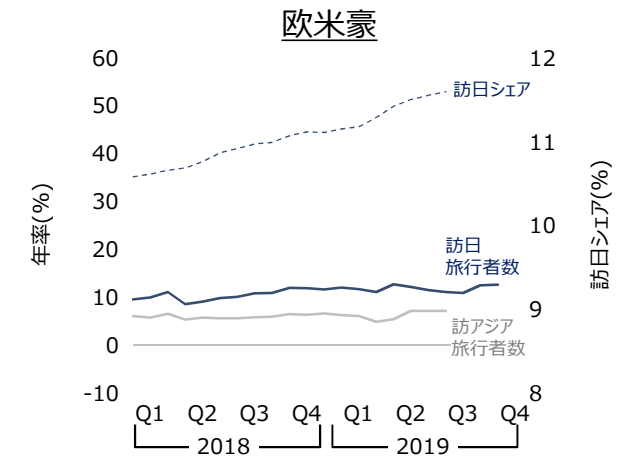
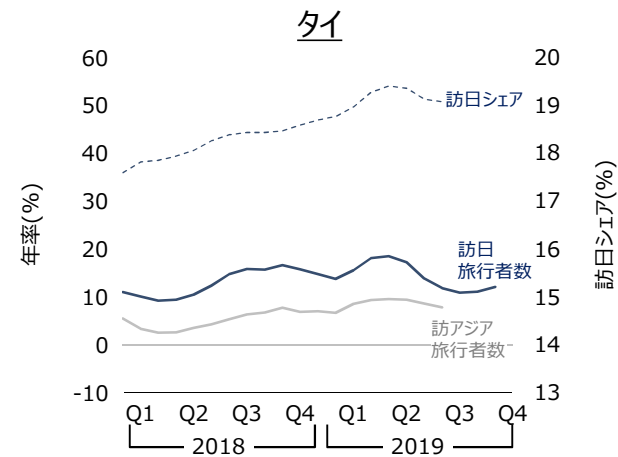
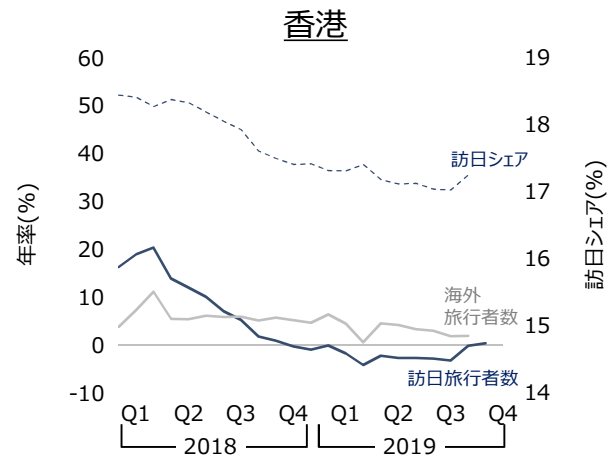
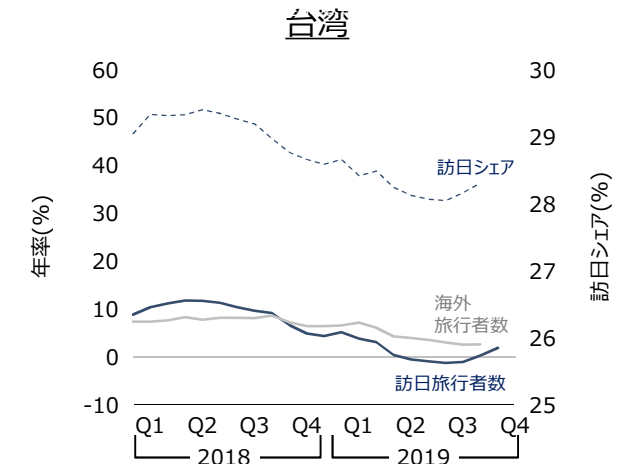
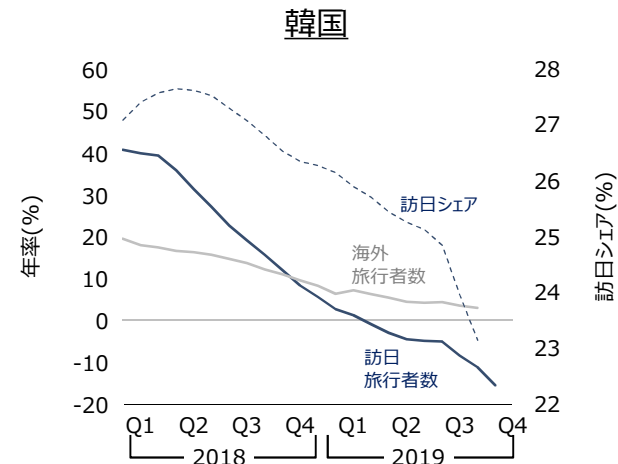
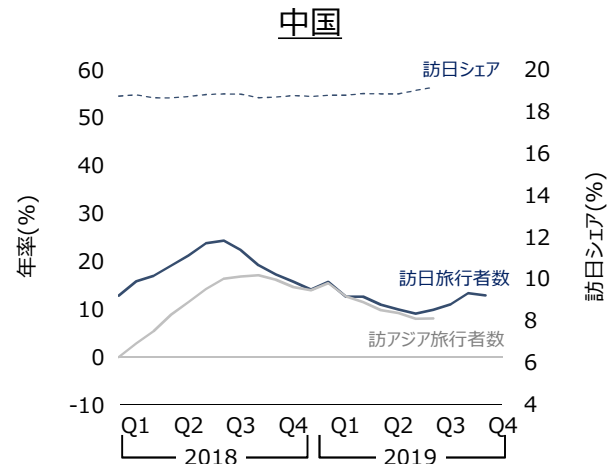
今後3か月の見通し

加速	増加や減少の幅が拡大する
減速	増加や減少の幅が縮小する

見通し判断の根拠

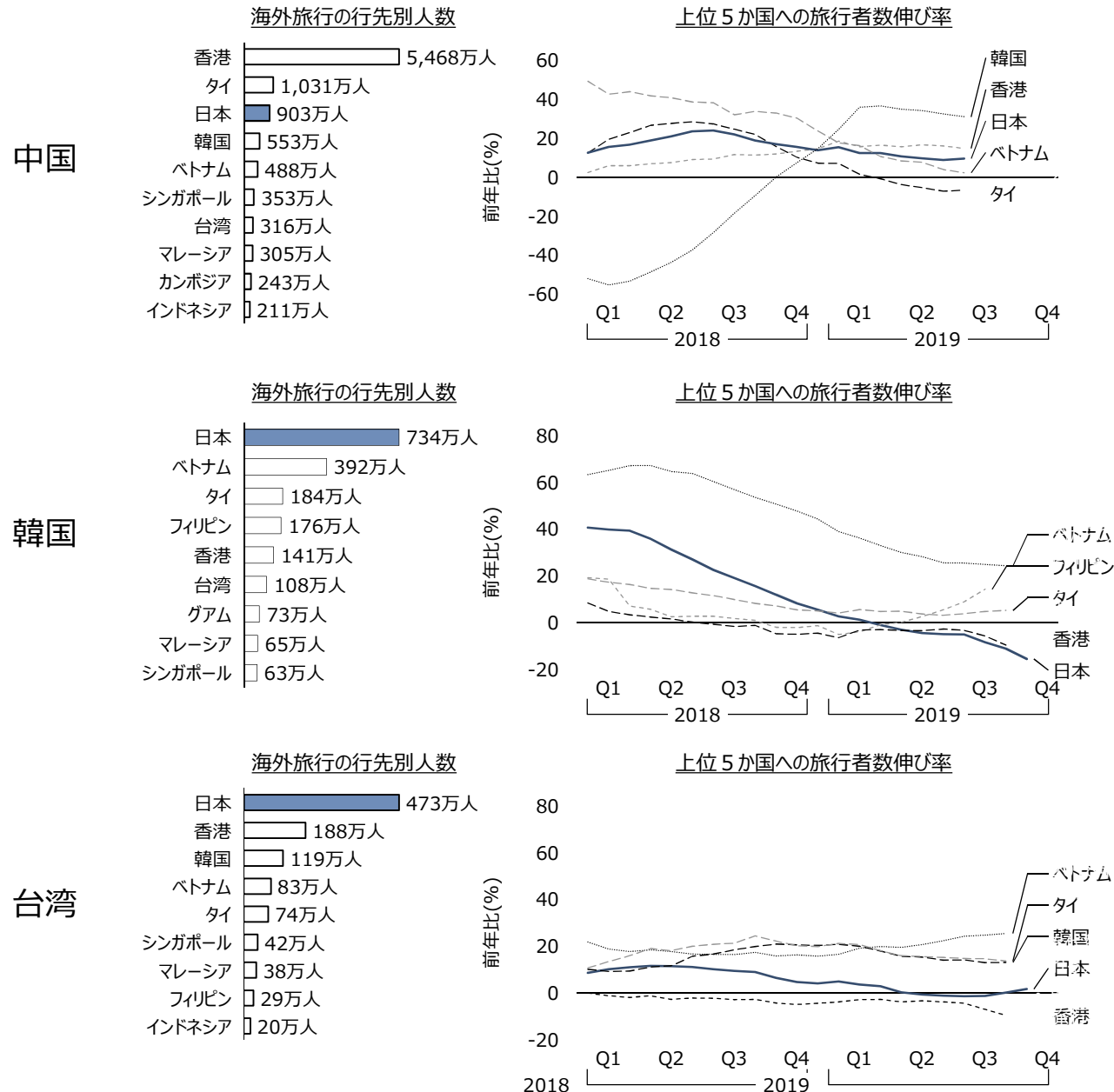
今後3か月の見通しは各地域の空港発着の国際線座席数の今後の推移をOAGのデータをもとに把握、これと各地域発の海外旅行者数の動向を勘案して判断している。地域によっては域内空港で入国する旅行者数を陸路で流入する旅行者がはるかに上回っているケースもあるが、地域の宿泊需要と域内空港の国際線座席数のプラス・マイナスの向きは概ね一致するものとみている。

市場の成長率(旅行者数)



データ出所：韓国、台湾、香港、タイの海外旅行者数は各国の統計機関の公表数値。中国と欧米豪はアジア太平洋の主な行先国への旅行者数をPATAmPOWER 収録データをもとに合計したもの。海外旅行消費額は各国中央銀行の国際収支統計に基づく。中国については UNWTOのTourism Barometer 掲載数値(アジア太平洋各国への旅行だけでなく全海外旅行に対応する消費額)。欧米豪に関しては数値不明のため掲載せず。訪日消費額は観光庁「訪日外国人消費動向調査」に基づく。

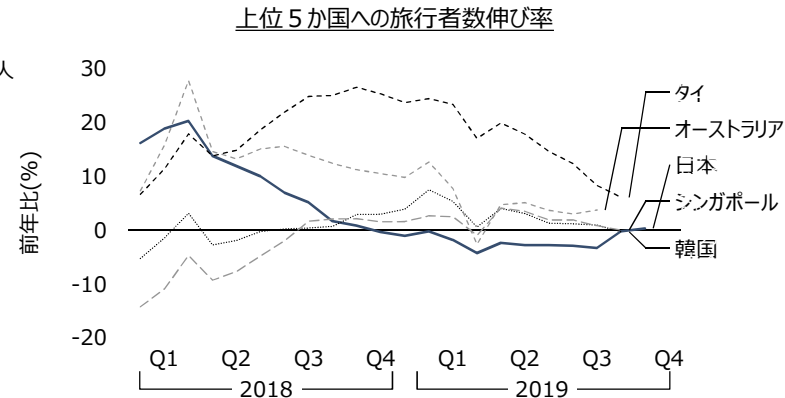
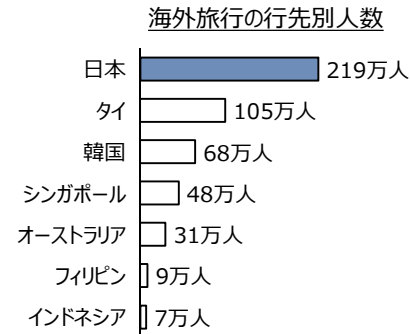
訪日競合国への旅行者数と成長率



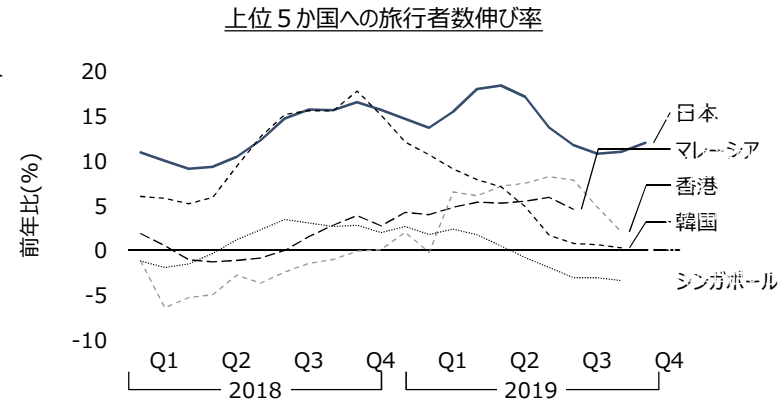
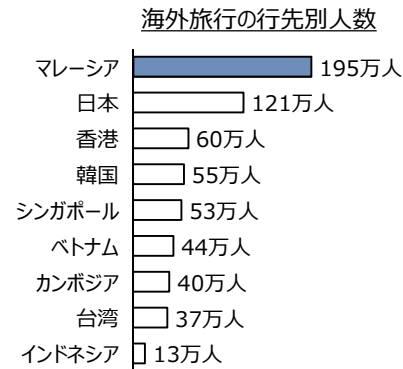
(注)中国への旅行者数は中国が月別の国際旅行者数の発表を中止しているため不明。棒グラフの数値は2019年7月における過去12か月累計値。
データ出所：PATAmPOWER

訪日競合国への旅行者数と成長率（つづき）

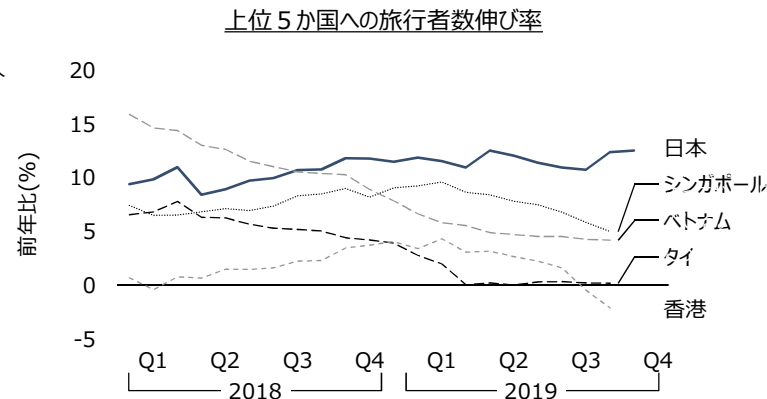
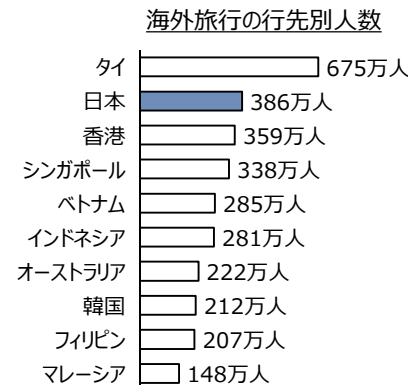
香港



タイ



欧米豪



(注)中国への旅行者数は中国が月別の国際旅行者数の発表を中止しているため不明。棒グラフの数値は2019年7月における過去12か月累計値。
データ出所：PATAmPOWER

データで見る訪日インバウンド市場トレンド

発行日 2019年11月末時点
発行者 株式会社JTB総合研究所
03-6722-0700
分析協力 OAG Aviation Worldwide Limited.
データ提供 Pacific Asia Travel Association(PATA)

本レポートは <https://www.tourism.jp> にてダウンロードいただけます。印刷物は作成しておりません。
転載を希望される場合は弊社までご一報ください。

© JTB Tourism Research and Consulting 2019